

PRIMERGY RX1330 M5/TX1310 M5(BMC 対応)/TX1320 M5/TX1330 M5**ご使用上の留意・注意事項**

PRIMERGY RX1330 M5/TX1310 M5(BMC 対応)/TX1320 M5/TX1330 M5 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2024 年 9 月

エフサステクノロジーズ株式会社

【制限事項】**1. 【修正済】Wake On LAN(WOL)のご使用制限について**

※ Onboard/PY-LAxxx Intel LAN Driver v27.2.1 で修正されました。

Windows Server 2022 で下記 NIC における Wake On LAN 機能はご使用いただけません。

- Onboard LAN ポート
- Intel I210 カード [PY*LA201]
- Intel I350 カード [PY*LA262/PYBLA262L]

2. 【修正済】LAN カードの iSCSI 制限について

※BIOS R1.37.0 で修正されました。

LAN カードをご使用する場合、iSCSI 設定しても動作しません。

iSCSI を使用する場合、ファイバーチャネルカードをご使用ください。

3. 【修正済】Onboard LAN1 の Shared LAN 使用制限について

※Shared LAN制限およびShared LAN使用時のVLAN機能制限は、iRMC FW 1.15Sで修正されました。

Onboard LAN1 は Shared LAN として使用できません。

BIOS セットアップメニューで Server Mgmt->iRMC LAN Parameters Configuration

->Management LAN Port を Shared に変更しないでください。

また、iRMC Web UI の Settings->Network Management->Network Interface->Network Port を Shared LAN1 に変更しないでください。

4. 【修正済】Management LAN ポートの 100Mbps 接続について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

100Mbps のネットワーク環境では通信できません。

Management LAN ポートから iRMC への接続は 1Gbps のネットワーク環境で接続してください。

5. 【修正済】iRMC Web UI の eLCM の Deployment について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

iRMC Web UI の Tools->Deployment->Update Service Platform より、最新版の eLCM の Deployment モジュールの更新に失敗します。

一度、iRMC WebUI の Tools->Internal Storage で SD カードから Deployment モジュールを削除し、Tools->Deployment->Update Service Platform で再度、最新版をダウンロードしてください。

6. 【修正済】iRMC Web UI の Deployment 機能について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

ServerView Agentless Service がインストールされていない環境、かつ、サーバが電源 On された状態で、iRMC Web UI の Tools->Deployment->Deployment Process より、OS インストールプロファイルを選択し Deployment を実行した際に、Deployment がエラー終了する場合があります。

ServerView Agentless Service がインストールされた環境でご使用ください。

または、サーバが電源 Off された状態で Deployment 機能をご使用ください。

7. 【修正済】iRMC Web UI の BIOS TFTP Update について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

iRMC WebUI の BIOS Update で Update Source に TFTP を指定すると BIOS の Update ができない場合があります。iRMC Web UI の BIOS Update では、Update Source に Image File を指定してください。または、ASP Update を使用してください。

8. 【修正済】iRMC Web UI の RAID 論理ディスク作成について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

iRMC WebUI の Mass Storage->Storage Controllers の Create Logical Drive メニューでは、RAID10 および RAID50 のみ論理ドライブ作成ができません。

RAID10 および RAID50 の論理ドライブ作成は、BIOS の HII Configuration Utility や ServerView Installation Manager(SVIM) を使用してください。

9. 【修正済】電源ケーブル接続後の SEL メッセージの日時について

※iRMC FW 1.15S で修正されました。

電源ケーブル接続後、iRMC が起動してからサーバが電源 On するまでの間、iRMC が検出した SEL イベントは 2000-01-01 からの日付で記録される可能性があります。

日付表示のみの問題であるため、出力されたイベントに従って、対処してください。

10. 【修正済】iRMC Web UI のファイバーチャネルカード(32Gbps)関連情報の表示について

※BIOS R1.37.0 で修正されました。

ファイバーチャネルカード[LPe35000(PY*FC421)/LPe35002(PY*FC422)]をご使用時、iRMC の Web UI で System->Network->Network Adapters に WWN などのネットワーク関連情報が表示されません。

また、LPe35000/LPe35002 を使用時、FUJITSU Software Infrastructure Manager の仮想 IO 管理機能は使用できません。

ファイバーチャネルカードの設定情報の確認、または設定を実施したい場合は、BIOS セットアップメニューで Advanced->"Emulex LightPulse LPe3500x-***"をご使用ください。

11.【修正済】iRMC の SD カード関連 SEL 誤検出について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

AC 電源投入時や iRMC リセット後の iRMC 起動時に、下記の Minor イベントが SEL に誤って記録される場合があります。

- ・160040 SD card is not present. No SD card-based activities related to the iRMC/BIOS firmware restore feature can be performed.
- ・16004A Restore of iRMC firmware %x omitted due to an unexpected error.
- ・16004E Backup creation of iRMC firmware %x aborted. The backup of the previous iRMC firmware still exists.

システムボード交換時に発生した場合：

以下を確認して問題なければ対処不要です。

- ・iRMC WEB UI で SD card の状態確認

(Tool-> Internal Storage-> Memory Card Information で次のメッセージが表示されていないこと。

「この機能を有効にするには大容量 SD カード(SDHC)がシステムボードにインストールされている必要があります。」)

- ・iRMC WEB UI で iRMC Firmware 版数確認

(System->Running iRMC FW)

- ・SEL に以下がログされること

iRMC Firmware %x has been successfully restored from SD card.

通常運用中の AC 電源 Off/On 時や iRMC 再起動時に発生した場合：

対処不要です。

12.【修正済】iRMC Firmware Image Corrupted の SEL 誤検出について

※iRMC FW 1.13S で修正されました。

iRMC 起動時に、以下の SEL が誤ってログされる場合がありますが、iRMC 機能に影響はないため、そのままご使用ください。

MINOR iRMC S6 firmware image 1 corrupted

または

MINOR iRMC S6 firmware image 2 corrupted

13.【修正済】iRMC Web UI / Restful API で復元できない BIOS 設定について

※BIOS R1.37.0 で修正されました。

iRMC WEB UI または Restful API 経由で BIOS 設定をバックアップ&復元しても、下記の項目については設定が反映されません。設定変更した場合は、あらかじめ BIOS 設定を書き留めておいてください。復元後、下記の項目については設定を確認し再設定してください。

- Advanced-> PCI Subsystem Settings
 - Native PCIE
- Advanced-> CPU Configuration
 - C-States Auto Demotion
 - C-States Un-Demotion
 - Package C-state demotion
 - Package C-state un-demotion
 - Enhanced C-states
 - CState Pre-Wake
 - Race To Halt (RTH)
 - Energy Efficient Turbo
 - REFRESH_2X_MODE
 - DMI Max Link Speed
 - Native ASPM
 - Energy efficient CPU Power Limit
 - Voltage Optimizations
 - Per Core P State OS control Mode
 - DMI Gen3 ASPM
 - DMI Link ASPM Control
- Advanced-> Memory Configuration
 - DDR PowerDown and idle counter
 - DDR Speed Control
 - SA GV High Gear

14.【修正済】ID ボタンの LED 状態について[RX1330M5 のみ]

※iRMC FW 1.15S で修正されました。

フロント ID ボタン押下時、稀に LED 表示が正常に動作しない場合があります。ID ボタン押下時は、LED が確実に点灯/消灯したことを確認してください。

15.【修正済】SEL に記録される Fan Failed および Power Supply failed について[TX1330M5

ベースユニット(300W 電源)のみ]

※本問題は iRMC FW 1.12S で修正されました。

OS 起動時、または、OS 再起動時に次の二つの Critical イベントが SEL に記録される場合がありますが、

'FAN PSU': Fan failed

'PSU': Power supply failed

数秒後に次の二つの Information イベントが SEL に記録されている場合は問題ないため、そのままご使用ください。

'FAN PSU': Fan is working

'PSU': Power supply OK

なお、リモート通報の設定をしている場合も上記 Critical の通報がありますが、数秒後に上記 Information が SEL に記録されている場合は、問題ありません。

また、FAN TEST 開始時、終了時にも上記ログが SEL に記録される場合がありますが、問題ないため、そのままご使用ください。

16. 【修正済】CPU Configuration(Turbo Mode)の使用制限について

[TX1320M5/TX1330M5 のみ]

※BIOS R1.40.0 で修正されました。

『TX1320 M5 250W 標準電源搭載ベースユニット、または、TX1330 M5 300W 標準電源搭載ベースユニット』、かつ、Xeon プロセッサ E-2336 をご使用時、CPU Configuration (Turbo Mode) 出荷時設定は Enabled になっていましたが、CPU が高負荷状態になった場合、稀に突然電源断する場合がありますので、Disabled に変更します。

Enabled で使用されている場合は、Disabled に変更してご使用ください。

BIOS Setup メニューで Load Defaults を実施した場合、Turbo Mode は Enabled になりますので、再度 Disabled に変更してご使用ください。

BIOS セットアップメニューで Advanced-> CPU Configuration->Turbo Mode を Disabled に変更してください。

本件発生時は、SEL に PSU の Critical(Code 020000) 「Power unit primary power lost」が記録されます。

17. 【修正済】DIMM3 枚構成でのハングについて

※BIOS R1.40.0 で修正されました。

DIMM を 3 枚構成 [DIMM 増設時も含まれます] でご使用されている場合、DIMM アクセスが高負荷状態になったとき、稀にハング (表示画面が固まる [マウスカーソルが止まったままになる、キー入力できないなど]) が発生する不具合があります。OS 種別に関係なく発生します。

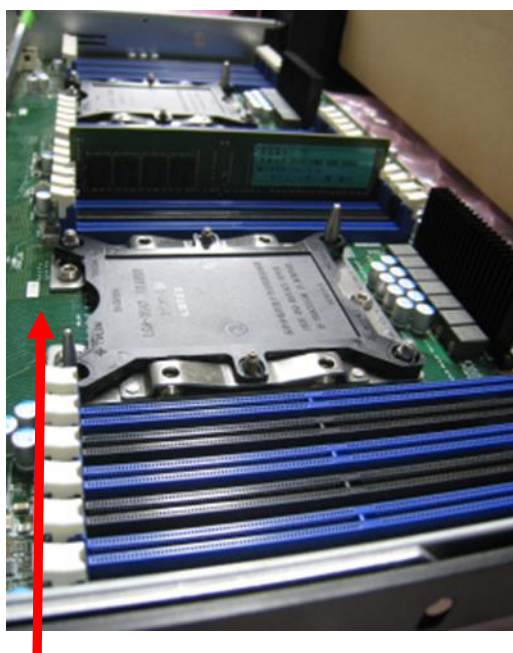
本現象発生時は、NMI スイッチを押下した後、電源 Off/On を実施してください。

DIMM を 1, 2, 4 枚構成でご使用されている場合は発生しません。

DIMM3 枚構成時は、BIOS R1.40.0 以降を必ず適用してご使用ください。

18. Upgrade and Maintenance Manual の補足について

Upgrade and Maintenance Manual の『メモリモジュールの取り付け』において、メモリ取り付け時は接触不良などを避けるため、メモリスロットに一度搭載しロックをかけたのち、再度ロックを外してメモリを搭載しなおしてください。その際、ロックをかけた後、メモリスロットの赤矢印部分が一行になっており、開いていないことを確認してください。



19.【修正済】Beep 音機能について

※BIOS R1.40.0 / iRMC FW 1.19S で修正されました。

BIOS R1.40.0 / iRMC FW1.19S の適用により OS からの Beep 音機能をサポートします。

R1.40.0 より前の版数を使用されている場合は、BIOS Update 後に以下の手順で

BIOS 設定の初期化を実施し、機能を有効化してください。

1. 装置の電源 Off
2. iRMC Web UI から BIOS 設定のバックアップ
3. BIOS 設定の初期化

BIOS セットアップメニューから、Save & Exit -> Restore Defaults を実行後 Save Changes を実行
フロントパネルの電源ボタン、もしくは iRMC Web UI から装置電源 Off

4. iRMC Web UI から手順 2 で取得したバックアップデータのリストア

また、本機能をご使用いただくためには下記の ServerView Agentless Service が必要です。

Windows OS 向け: v10.30.04 以降

Linux OS 向け: v10.40.06 以降

20.【修正済】TX1330M5 へ VDI/GPGPU カード(NVIDIA A2) [PY*VG4A8]搭載

時のシステムファン動作について

※iRMC FW 1.29S で修正されました。

TX1330M5 へ VDI/GPGPU カード(NVIDIA A2) [PY*VG4A8]を搭載した場合、iRMC FW 不具合のため冷却用のシステムファンが常に高速で回転します。

システムイベントログ (SEL) に FAN に関するエラーがログされない場合、故障ではありませんので、機能として問題はありません。

iRMC FW 1.29S 以降の最新版を適用してご使用ください。

【留意事項】

1. Pentium Gold G6405 プロセッサをサポートする RHEL 版数について

Pentium Gold G6405 プロセッサをご使用時、RHEL のサポート OS 版数は RHEL8.5 以降となります。

2. リモート通報の設定方法について

iRMC S6 を搭載する装置ではサーバ監視・管理について、iRMC 接続が必要となりました。iRMC でリモート通報するためには、iRMC の SNMP トラップ、e-mail Alert の設定などを実施する必要があります。詳細は iRMC S6 のマニュアルを参照して設定してください。

『iRMC S6 - Web インターフェース』取扱説明書

『iRMC S6 - コンフィグレーションとメンテナンス』取扱説明書

3. Internet Explorer 使用について

Microsoft 社の Internet Explorer(以下 IE)サポート終了に伴い iRMC Web UI の IE 及び Edge の IE モードサポートを 2022 年 6 月 16 日(日本時間)に終了いたします。

サポート終了後は、『iRMC S6 - Web インターフェース』取扱説明書を参照し、Edge もしくは他のサポートブラウザをご使用ください。

4. DP(Display Port)について[TX1320 M5/TX1330 M5 のみ]

DP は CPU 内蔵グラフィックスコントローラに接続されるため、内蔵グラフィックスコントローラを持たない CPU が搭載されている場合は、DP を使用できません。VGA ポートまたはグラフィックスカードをご使用ください。

DP を使用可能な CPU :

インテル® Pentium® Gold G6405 プロセッサー

インテル® Xeon® プロセッサー E-2324G/2374G/2356G/2386G/2378G/2388G

DP を使用できない CPU : インテル® Xeon® プロセッサー E-2314/2334/2336/2378

なお、TX1310M5(BMC 対応)は DP を使用可能な CPU のみを採用しています。また、RX1330M5 には DP がありません。

5. ディスプレイドライバに関する注意事項

マルチディスプレイ(※1)の出力モードによっては、ディスプレイに画面が表示されない(黒画面になる)、あるいは一部画面が表示されない場合があります(※3)。

※1: 以下を全て満たす場合、マルチディスプレイ機能が有効になります。

- ・DP 対応の CPU を搭載している装置
- ・Aspeed 製グラフィックスドライバがインストールされている(※2)

※2: Aspeed 製グラフィックスドライバは、VGA ポート接続ディスプレイ用ドライバです。

SVIM V14.23.02 (SVSDVD V14.23.04 同梱)以降を用いた OS インストール時、および開封時に自動的にインストールされます。

※3: Windows ログイン時、BIOS のオンラインアップデート時等に非表示になります。

DP 接続ディスプレイへの表示異常時、VGA ポートにディスプレイを接続していないならば、以下のいずれかの方法で対応してください。

- ・Windows + P キーを押下することで、マルチディスプレイ出力モードを切り替えられます。
DP 接続ディスプレイへの表示が正常でない場合は、Windows + P キーを何度か押下して画面を正常に表示させた上で、Aspeed 製グラフィックスドライバをアンインストールしてください。
- ・一旦 VGA ポートに接続したディスプレイまたは AVR(Advanced Video Redirection)画面でログインし、Aspeed 製グラフィックスドライバをアンインストールしてください。

VGA 接続ディスプレイへの一時的な表示異常時、DP ポートにディスプレイを接続していないならば、装置を再起動させ、正常な表示に復旧させてください。また、Intel 製グラフィックスドライバをインストールしている場合は、アンインストールしてください。(※4)

※4: Intel 製グラフィックスドライバは、DP 接続ディスプレイ用ドライバです。

一時的な表示異常時、VGA ポートと DP ポートの双方にディスプレイを接続している場合は、装置を再起動させ、正常な表示に復旧させてください。

6. AVR(Advanced Video Redirection)画面について

AVR 画面は VGA ポートの画面をリモート出力します。

DP 対応の CPU を搭載し、DP ヘッドディスプレイを接続している場合は、DP 画面が 1st ディスプレイ、VGA 画面、すなわち AVR 画面が 2nd ディスプレイと認識されます。

AVR 画面が 2nd ディスプレイを表示している場合は操作しにくいことがありますので、AVR を使用する際は DP 接続ディスプレイを外して VGA 画面、および AVR 画面を 1st ディスプレイとして使用することを推奨します。

7. iRMC S6 ご使用上の留意・注意事項について

iRMC S6(Integrated Remote Management Controller)に関する、ご使用上の留意・注意がまとめられておりますので、合わせて『iRMC S6 ご使用上の留意・注意事項(CA92344-5096)』を参照してください。

FUJITSU Server PRIMERGY マニュアルのページに公開されています。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

8. 増設時の DIMM(メモリ)手配について

DIMM は同一型名の 1 種のみ搭載可能です。

増設する場合は、BTO 型名で搭載されている DIMM[例：PYBME16UG3]と同一の DIMM 一般 OP 型名[例：PY-ME16UG3]で手配する必要があります。種類の異なる DIMM を増設することはできません。

9. インテル社のファームウェアに関する脆弱性 (INTEL-SA-00828 / CVE-2022-40982) について

INTEL-SA-00828 / CVE-2022-40982 に対応した BIOS R1.43.0 版以降へアップデートし脆弱性対処を実施した場合、処理性能への影響を示唆する記事がインテル社より公開されております。その為、本脆弱性に対する対処を判断して頂く為の情報を以下に記載しておりますのでご参照ください。

重要なお知らせ：<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/note/page43.html>

10.RX1330 M5 300W 電源標準搭載ベースユニットにおける CPU

Configuration(Turbo Mode)の使用制限について

RX1330 M5 について 300W 電源標準搭載ベースユニット(PYR1335R*S)手配時は、Xeon プロセッサ
– E-2314(PYBCP63E1)でのみ BIOS セットアップメニューで Advanced-> CPU Configuration
->Turbo Mode より Turbo Mode を有効化できます。

Xeon E-2334(PYBCP63E2)、Xeon E-2336 (PYBCP63E3)、Xeon E-2378 (PYBCP63E4)、
Xeon E-2324G (PYBCP63E5)では本機能を有効化できません。

11.CPU の Package C State について

BIOS セットアップメニュー で Advanced->CPU Configuration->Package C-State limit を Auto または
C3, C6, C7, C7S に設定しても、C2 までしか省電力は機能しません。

– 以上 –